
いななき

第17号



青山学院大学体育会馬術部・緑鞍会



目次

第一部

新馬場開設に寄せて

馬術部の発展にさらに努力とご支援を

努力と忍耐の精神

新馬場開設記念号に寄せて

新馬場移転特集号に寄せて

青山学院大学体育会馬術部町田馬場新設にあたって

青山学院大学馬術部厩新舎落成記念

青山学院大学町田グラウンド厩舎及び馬場奉献式

新厩舎落成記念式典

第二部

思い出がいっぱい

「私と馬の縁えにし」

思い出の馬場、厩舎

綱島の思い出

84周年を彩る思い出の馬場・厩舎

綱島時代の思い出

綱島の思い出

綱島馬場回想記

アシエンダでの思い出

アシエンダ乗馬学校は

緑鞍会会長 新城直樹……………1

青山学院大学馬術部長 土山實男……………2

高等部馬術部顧問 佐藤隆一……………2

緑鞍会理事長 岩崎修……………3

緑鞍会幹事長 星亨輔……………4

馬術部監督 大塚まりこ……………5

……………7

……………8

……………10

……………13

福原美里……………13

堅村昭三……………13

鈴木敏文……………15

松永恭直……………16

安田景一朗……………16

鈴木美穂(旧姓：横田)……………17

津田果奈……………17

高遠あゆ子……………18

成瀬聡……………18



遠野での夏合宿の思い出

エピソード

青木先輩・羽坂先輩米寿のお祝い

羽坂先輩 叙勲(旭日中綬章)のお祝い

第三部

現役紹介

主将挨拶

部員紹介(あみだくじで決めた他已紹介です)

「渡邊 彩」 1年 木林 里乃…………… 33

「野上 香織」 4年 渡邊 彩…………… 34

「下家 ひろみ」 1年 森 美穂…………… 34

「中野 亜耶」 1年 森 香奈子…………… 35

「石澤 裕弥」 4年 安保 静奈…………… 35

「平山 菜子」 2年 下家ひろみ…………… 36

「安保 静奈」 1年 石澤 裕弥…………… 33

「元野 法子」 1年 中野 亜耶…………… 34

「木林 里乃」 2年 元野 法子…………… 34

「森 香奈子」 4年 野上 香織…………… 35

「森 美穂」 1年 平山 菜子…………… 35

今野 幸夫…………… 20

佐藤 一貫…………… 22

…………… 26

…………… 26

…………… 26

渡邊 彩…………… 33

…………… 33

町田グラウンド新馬場紹介

馬匹紹介

高等部紹介

高等部主将挨拶

活動記録

活動計画

平成19年度試合結果

編集後記

高橋 冴香…………… 44

…………… 44

…………… 44

…………… 45

下家ひろみ…………… 46

巻頭言

新馬場開設に寄せて



緑鞍会会長 新城直樹

(昭和二八年卒)

久しぶりの「いななき」の発刊に際し一言ご挨拶申し上げます。
平素は現役馬術部に対して愛情溢れる援助を賜り誠に感謝の他は御座いません、厚く御礼もうしあげます。お蔭様にてこのたび学校の援助により、町田グラウンドに馬術部専用の馬場と厩舎が設けられ、現役部員が練習に励むことが出来る様になりました事、ご同慶に耐えませぬ。

思い起こせば私が現役の時、強引に学内に馬を持ち込み、我々部員の手で馬小屋を立て、青山のグラウンドにて練習に励んで以来、温情により厩舎を作って戴き、そして綱島の総合グラウンドの建設、今度は全てに完備された厩舎と馬場が出来上がった事は、本当に良かったなという思いでいっぱいです。

今後の課題としては、この立派な設備を維持していくために、部員増強に力を注ぎ、大勢の部員が互いに切磋琢磨して技輻の向上に励み、日本に青山学院大学馬術部ここにありと名を轟かして欲しいと思っております。

この伝統ある馬術部を学生諸君が大事にし、今後益々発展して後世につなげていける様努力して下さいることを念じて止みませぬ。

勿論、その為の援助を卒業生の団体である緑鞍会が心していく事は当然のことと思っております。どうか宜しくお願い申し上げます。

馬術部の発展にさらに努力とご支援を

青山学院大学馬術部長 土山 實男



町田市の小野路町に、青山学院の理解をいただいで長年の念願がかなって新厩舎ができてから、厩舎に慣れるまでに予想しなかったことや思いがけない問題が次々と出てきて、大塚監督や部員にとってはかえって大変だったかもしれ

ません。また、相模原や青山の授業になかなか行けなかったり、またそういうこともあってか部員数が減ったりして、部員には苦勞の耐えないこの二年だったかとも思います。

わたくしは、何が忙しいのかばたばたとしていて、このところ馬事公苑にも新厩舎にもあまり顔を出せず部長の役目をちゃんと果たせないでおりますが、それでも馬術部が、昨年も今年も、少人数の部員ながら何とか戦績をあげてきたことは、渡邊彩主将を中心とする部員の諸君の毎日の練習と努力の結果だと誇りに思っておりますとともに、あわせて大塚監督やコーチ始めOBの方々のご支援のおかげではじめてこういう結果が得られたものと、有り難く、皆様から感謝申し上げる次第です。また、この夏から犬が厩舎に連れられて来て、部員に可愛がられているとのことですが、馬の番犬としての役割も果たしてくれるのではないかと犬君にもひそかな期待を

しています。

新厩舎に移って、これだいたい態勢が整ったように思いますので、来年に向けて全員でいい成績をあげられるよう意欲を燃やしていただきたい。また同時に、学業の方からも力を抜かないようにお願いしたい。確かに馬術部の場合、学業と体育会活動を両立させることがなかなか容易でないことはよく承知していますが、それでもラグビー部や女子バレーボール部の諸君のようにがんばっている連中もいますから、両立させることはやろうと思えば決してできないことではありません。青山学院大学に入ったことを誇りに思って、他の学生よりたえ時間が多少かかってもちちゃんと卒業できるようにがんばるようお願いいたします。

日頃、青山学院大学体育会馬術部に格別のご支援とご協力をいただいておりますことにあらためて感謝いたしますとともに、今後とも馬術部にご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

努力と忍耐の精神

高等部馬術部顧問 佐藤 隆一



2001年の綱島馬場の閉鎖により、大学内の練習場がなくなり、これまでずっと大学の馬場で監督・コーチや大学生の皆さんのご指導で活動が続けてきた高等部馬術部は、存亡の危機を迎えました。その後も

2004・5・6年度と部員数は高等部のクラブ規約の最低人数である8名を割り込み（高等部の規定では3年間8名を割り込むと廃部とするきまり）、2006年4月には教員会議で馬術部廃部が決定されようとなりました。

ちょうど、時を同じくして大学町田馬場がオープンしましたので、この教員会議ではこれまで学内の練習場がなくて外部の乗馬学校の一角をお借りして活動を続けなければならなかったことなどの困難な事情を説明し、あと1年クラブとしての活動を延長してほしい旨の要請をしたところ、教員の採決の末にやっと特例が認められました。しかし実際のところ、町田馬場も高等部のある渋谷からはかなり遠いところがあるので、はたしてこれから部員が集まりクラブとしての活動が続けられるのかどうか、不安が募るばかりでした。

しかし、さすがは馬術部は歴史と伝統を誇るクラブであり、卒業生・監督・コーチ・大学馬術部員の皆様の手厚いご指導をいただき、部員もこれに添えてみんなで励まし合い、一生懸命に練習に打ち込みましたので、本年度（2007年）新入生が5名も加わり、文句なしにクラブとして存続し、雰囲気もいっそう明るくなってきました。7月には山梨県馬術競技場での全国大会に出場し、ベスト12まで勝ち残るといふ快挙を達成しました。8月には長野県の明松寺馬事公苑での夏合宿を行い、自然豊かな環境のなかで楽しく存分な練習を行うことができました。

こうした経緯から、馬術部の最大の教訓はどんなに悪条件となっても、どんなに少人数となっても、周りから何を言われようとも、みんなで辛抱してがんばって行こうとする努力と忍耐の精神を身をもって培えたことではないでしょうか。数々の難局を乗り越えてき

ただけに、これからの馬術部はいっそう期待がもてます。試合出場の折には、ぜひ多くの皆様のご観戦がいただけますようお願いいたします。

（2007年10月7日稿）

新馬場開設記念号に寄せて

緑鞍会理事長 岩崎 修
（昭和三十六年卒）



平成十八年春桜咲く町田グラウンド内新馬場で内外多くの方々のご出席いただき盛大に馬場開きを開催することが出来ました。綱島を離れて五年、新しい活躍の場が完成しました。

ここに至る迄には多々困難なことがあったと聞きましたが、学校のご尽力により、近代的な素晴らしい施設を提供いただき深謝に堪えません。これも八十年を越える馬術部の伝統を学校が尊重されたことと忖度しております。改めて「継続は力なり」を感じました。

私は青山キャンパス内の馬場、校庭を使用した仮設的馬場、そして綱島と三ヶ所を経験しました。狭い馬場、堅い馬場、田圃のような馬場と、部活動ばかりでなく馬にとっても不足な環境にありましたが、草取りをしたり、堅い馬場で疲れた脚を束藁（そっこう）し

たり、石炭殻や砂を入れたり、状況に応じて、手を施して来たことを思い出します。今となっては懐かしい思い出になっています。この新馬場も学生にとってエポックメイキングになることでしょう。

緑鞍会及馬術部として学校のご支援に應えるには、充実した部活動を継続することで、その為には良い成績をおさめることも大事な課題となります。昨年より緑鞍会の皆様には、馬匹向上の為、寄附をお願いしてまいりましたが、ご協力感謝申し上げます。今後も馬術部発展の為、引き続きご支援賜りますよう、お願い申し上げます。最後にありますが、会員各位の益々のご健勝とご活躍を念じております。

新馬場移転特集号に寄せて

緑鞍会幹事長 星 亨 輔

(昭和五二年卒)

平成18年4月9日現役・OB・OGが待ちに待った新厩舎落成記念式典は晴れわたる空の下、青山学院大学町田グラウンドで行われました。前日までの嵐が嘘のように朝から晴れ渡り、春の心地よい風が桜吹雪となってまるで祝福をしてくれて

いるが如く式典を盛り上げてくれました。学校関係の先生方、他大



学や馬術協会の方々など多数の来賓にご臨席賜り心温まる祝辞を頂戴致しました。馬術部80年の歴史の中で今回の移転は青山キャンパスから綱島そして町田と3度目となりました。遡ること5年前、永きに亘り多くの諸先輩が青春の熱い思いを滾らせた綱島グラウンドを後に横浜はアシエンダ乗馬学校にお世話になる事となりました。馬術部卒部年度からすると2代は入部から引退までをアシエンダ乗馬学校で活動した事になります。

その間、学校のご担当部署に「一刻も早く新馬場に移転を」と交渉にあたられた土山部長先生、大塚監督をはじめとする諸先輩には、この場をお借りして感謝申し上げます。さらに、先々の馬匹の頭数や現役の部活動を見通した環境づくりに奔走頂きました。この新しい馬場は未だ見ぬ多くの後輩達が私達同様青春の熱い思いを滾らせてくれる本拠地となる事でしょう。ほんとうに有難うございました。また、学校関係の方々には多くの要望をお聞き届け下さり、素晴らしい設備の整った施設を造って頂きました事に感謝申し上げます。

私事ではありますが、新馬場の移転先が近々決定するとの情報が流れる平成17年7月緑鞍会総会に於いて里中前幹事長より幹事長職の後継として指名され、馬術部にとって大きな節目となる新厩舎落成記念式典の幹事役を務めさせて頂きました。拜命直後、私にとって仕事の場以外で経験の無い大きなイベントを取り仕切るプレッシャーは大変なものでしたが、準備の段階から式典当日迄の間多くの諸先輩、幹事、監督に支えられながら無事に式典を終える事ができました。ご参加頂きました会員の皆様有難うございました。

再び本拠地を授かった現役・緑鞍会は新たな出発の時を迎えまし


た。これから創部九〇周年、百周年を目指す新たなスタートラインに立った事になります。益々、馬術部が発展されます事を祈念し、微力ではありますが幹事長を務めさせて頂きます。会員の皆様に新しい馬場に来て頂けるようなイベントを企画して参りますので是非、ご参加ください。今後ともご指導ご鞭撻の程、宜しくお願い申し上げます。

青山学院大学体育会馬術部町田馬場新設にあたって

馬術部監督 大塚 まりこ

(昭和四四年卒)

この度は町田グラウンド創設記念いななき発行おめでとunggざいます。



青山学院学校法人、緑鞍会の会員の皆様方には馬術部の町田グラウンドの施設建設に一方ならぬご援助を頂きました事にこの場をお借りして厚く御礼を申し上げます。

お陰様で素晴らしい、使いやすい馬術施設ができました。

自前の施設が持てた事は本当に幸せなことと感謝しております。私が監督を引き受けることになってから、今年で13年となりましたが、監督在任中に新馬場が出来まして、本当に良かったと思っております。

今から何十年前か前、私が初めて綱島グラウンドにあった馬場に行ったのは中等部の時でした。

中部、高等部、大学と馬場に通いましたが周辺の変化を目のあたりにして、「何時かはここから移転することになるのかな」と考え、監督になってからは厚木と青山の中間に馬場が出来れば学生が学校と馬場に通いやすいと場所を漠然と考えておりました。

私が中等部の頃に、初めて綱島の馬場を訪れた頃は、ラクビー場と馬場の間には土手があり、小川が流れていてドジョウがいました。馬場の周囲は高さ1メートル程の木製の拉致に囲まれ、グラウンドのまわりは一面のトマト畑でした。もしかしたらその頃はトマトが綱島の名産品だったのかもしれませんが。

練習が終わり、学校に行かない部員が土手の上でマージャンをしたり、本を読んだりそれぞれの時間を過ごしたものです。

グラウンドの正門の外にはやはり川が流れ、練習を終えた馬に乗って川の土手に散歩に行きました。

私が大学の1年生の時、「青史」と言う牝馬が入厩してきました。汗をかくとまるでふかしたてのおいものように「おいもちゃん」と呼ばれ、反動がないのですがびよんびよんと跳ね、駆け足はものすごいスピードでした。練習が終わると上級生から「大塚、歩かしてこい！」と言われ、何頭かの馬と連なってグラウンドの外に行くのが、私の秘かな楽しみでした。

ある日、一人でトマト畑の方に歩かせに行くと、狭い畦道を疾風のごとく走り出し、そのスピードがものすごく速く「蹴歩とはこれかしら？」と思うくらいの宙に浮くような駆け足で、それは気持ちのよいものでした。

もしも、ここで人馬転倒をしてもトマトだらけになるだけだと覚悟を決めたことがつい昨日のことのように思い出されます。

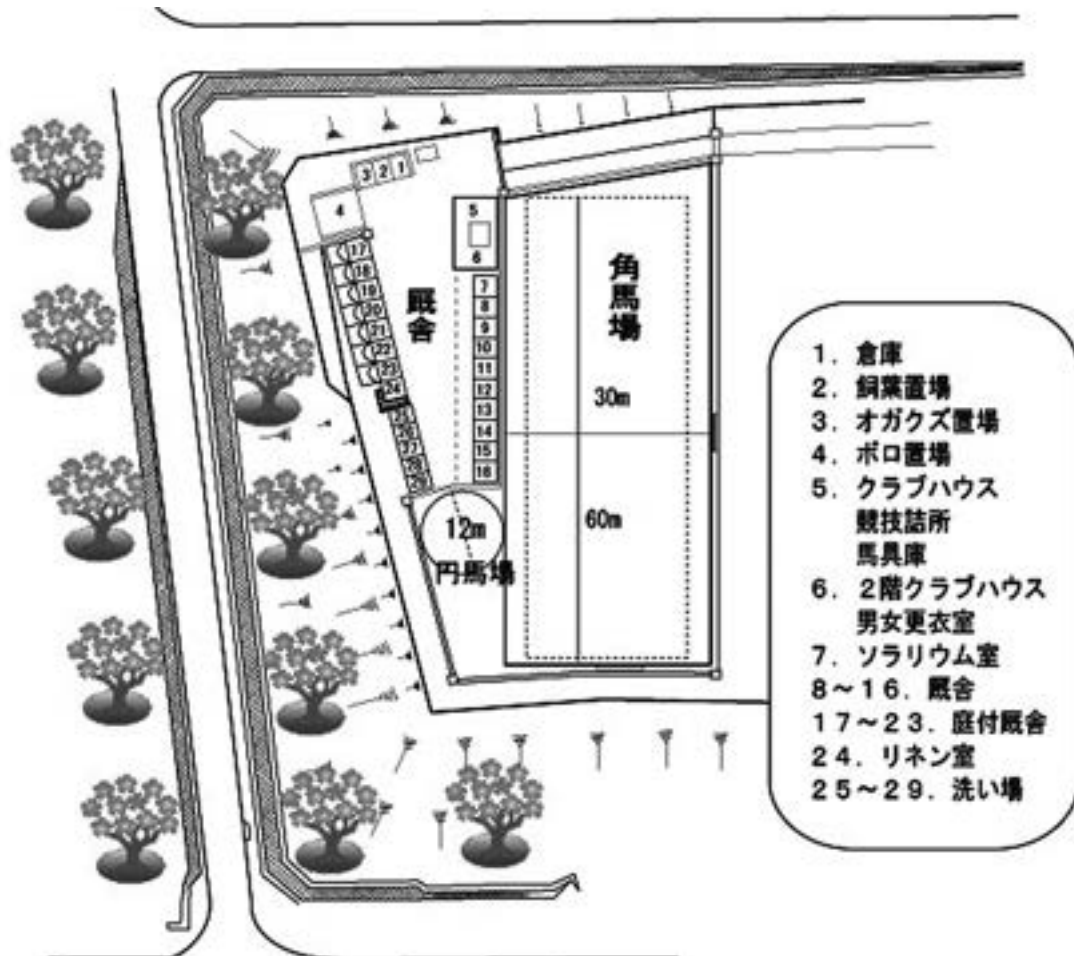
いっばい思い出が詰まった綱島グラウンドを学校の計画で移転をすることにになり、5年間もアシエンダ乗馬学校さんにお世話になりましたが、現在の町田グラウンドに念願の本拠地が平成18年2月に出来上がりました。

町田グラウンドは設備の整った施設で、老朽化した綱島馬場とは比べられないほど素晴らしく、使いやすい施設となりました。

町田グラウンド建設にあたり、何回もの打ち合わせを重ね、やっと現実味を帯びてきた時の感激は忘れ難いものであります。

馬場開きには大勢の青山学院の学校関係者、馬術関係者、馬術部の諸先輩方に参加して頂き盛大に行われました。

前日までの天気とは違ってかわった当日の良いお天気は、神も祝福して下さったとしか言いようがないような素晴らし晴天でした。



特集

青山学院大学馬術部

新厩舎落成記念




青山学院大学町田グラウンド厩舎及び馬場奉献式



武 次 第

司 式	学院副院長	東が 俊信
奉 告	宗教センター	齋藤 久忠
行 奏		
開 詞		
授 旗	28人	一 河
起 書	コソ記 第39巻1頁～25節 コハ本の野分歌 第19巻11～16節	
所 読	院 長	深町正信
式 辞	理事長	松澤 建
校歌斉唱	大学学長	武 藤 元 剛
感謝状贈呈	理事長	松澤 建
目録贈呈	清水建設株式会社 代表取締役執行役員副社長	星 河 康
閉 会	5人	一 河
祝 辞		
履 奏		

青山学院大学
町田グラウンド厩舎及び馬場奉献式



日時：2005年3月11日（火） 14時30分
場所：青山学院大学 町田グラウンド

学校法人 青 山 学 院





新厩舎落成記念式典

冠省 緑鞍会の皆様にはお変わり無くお過ごしのことと拝察致しております。平素は、馬術部の運営にご尽力賜り誠にありがとうございます。さて、かねてから建設中でありました新厩舎が、約5年間の仮住まいを終え無事に落成を迎えることとなりました。学校のご支援のもとすばらしい馬場が完成致しました。つきましては、左記のとおり新厩舎落成記念式典を催し、皆さんと新馬場完成の喜びを分かち合いたいと思います。ご多忙中とは存じますが、ぜひともご出席を頂きたくお願い申し上げます。

早々

平成十八年三月吉日

青山学院大学体育会馬術部緑鞍会

会長 新城直樹
理事長 岩崎修
幹事長 星亨輔

記

【日時】 平成十八年四月九日（日曜日）

新厩舎落成記念式典 午後二時（受付開始 午後一時半）

【会場】 東京都町田市小野路町小谷一五七一番 青山学院大学町田グラウンド内

【会費】 五千元（但し、同伴者三千元、十二歳以下無料）

尚 誠に恐縮ではございますが、同封の葉書にご都合をご記入の上、三月二十日までにご返送下さい。

また、葉書のコメント欄に左記についてご記入頂ければ幸いです。

『新馬場完成について』

『現役に対する激励について』

『ご自身の現役時代の厩舎の思い出』







第二部

思い出がいっぱい

「私と馬の縁えにし」

福原美里

(昭和三二年 文学部英米文学科卒業)

青山学院大学に入学して、初めて入った教室の黒板の右隅に「新入部員歓迎 馬術部」と書かれた文字が私の目に留まりました。これが私と馬術部との縁の始まりでした。

私は2才から12才まで旧満州で育ち、引揚げ者として昭和21年に日本に帰国しました。満州の広

大な大地で、私は一度だけ馬に乗ったことがありました。その時の事を鮮明に記憶しています。父は自家用の馬車を持っていました。タクシー代わりの馬車(マーチヨ)は街中であちこちに見られました



が、自家用として馬車を持っている人は殆んどいませんでした。父はやや得意気だったのだと思います。そんな過去の記憶が私を馬に乗る気にさせたのでしよう。

入部を希望して訪れた馬術部の部室は、狭く薄暗い納屋のような所でした。馬が一頭いました。青峰でした。私はともかく入部し、女子部員は平木、梅本、私の3人で、同級生の男子は東、藤根、村野の3名でした。青峰は反動の高い馬で私は何回も落とされました。やがて御殿場から運ばれてきた馬は、青姫と名付けられ皆に可愛がられました。2頭になりましたが、それでも一時間待った後の練習時間は、たった15分間だったのです。

2年生の頃でしょうか？校庭の隅に新しい厩舎ができました。綱島に移るまでの何年間かをここで過ごしたのです。やがて、馬場の場所に青学会館が建つことになると、練習は授業時間前に校庭で行われるようになりました。当時、阿部先生が厩舎に寝泊りして、馬の調教と学生の指導に当たっていました。花車、青翠、青嵐、青波を調教していた阿部先生の姿が今でも臉に浮かびます。早朝の校庭に巻乗りの8の字が見事に乱れなく線で描かれていました。私は阿部先生を師として馬術を学びましたが、同時にお酒の指南も受けた事が懐かしく思い出されます。

その頃の記憶で忘れ難い事は、当時の馬術部は馬糧代に不自由し、青山通りの向いの蕎麦屋「秋

月」で蕎麦湯を分けてもらって馬に与えたり、寝藁も不足して確保が大変でした。

3年生の秋から平木さんが先頭に立って、第一回の学習院戦(1954年10月23日)、慶応戦そして関東女子学生馬術大会を実現させ、出番のなかった女子に試合のチャンスを作ったのでした。学習院戦ではまさかの勝利をおさめ、抱き合って喜んだ時の感激は、貴重な私の青春であり、思い出です。また、馬術部の先輩・同僚・後輩の多くの方々に、今日に至るまで感謝し尽せない程お世話になりました事、この紙面を借りて心より御礼申し上げます。74才の今日、100%健康とはいえませんが、いまだ意気盛んに、やる気満々？で居られるのは馬術で鍛えた体力と気力のお蔭と感謝しております。

現役の皆さんは前途洋々です。馬で学んだ勇氣をもって、未来への人生を果敢に切り拓いてください！
おわり

思い出の馬場、厩舎

壺村 昭三

(昭和三四年卒)

私が馬術部に入部したのは、かれこれ52年前の昭和30年、終戦後の混乱からようやく立ち直り、岩戸景気や神武景気等のスローガンの下、復興の

きざしが力強く感じられる時代でした。体育会による新入生オリエンテーションが銀杏並木で開催され、馬術部は青姫号と共にイースト校舎（現在も正門より入り左側に残る）の前に陣取り部員の募集活動をしておりました。私は馬については殆ど知識がありませんでしたが、戦時中、父の知人が騎兵隊におり一度騎乗で来宅された時の記憶が鮮明にあり、なんとなく憧れを抱いていたのかも知れませんが、誘われるまま、東先輩（昭和31卒）や市原先輩（昭和32卒、故人）の巧みな話術に引き込まれ即、馬房へ連れて行かれてしまいました。初めて見た厩舎は、現役からは想像もつかないバラック建て（現在の青学講堂のあたり）のものでしたが、敗戦後間もない頃でもあり、さほど驚きも、違和感もありませんでした。むしろ入部後は、そんな馬房が妙に居心地がよく、落ち着く処となり授業が終わると何処よりも馬房へ直行したものでした。入部後最初に先輩が教えてくれた公衆電話の無料の架け方には、その意味が理解できないで唯、啞然とした記憶がのこっています。（先輩、もう時効ですね；）当時の部は戦後諸先輩が部の復活のために奮闘され、構内で馬の飼育を認めてもらい、少ないながらも体育会の予算もつけていただく等、環境は整備されており、後は馬を愛する現役が何としても伝統を守り部の維持運営を推進するのみであり、部員もまたその意気に燃えていました。このような状況のなか新入部員獲得は

部費収入という大切な資金源であり、部室まで着いて来た新入生（私）など、逃れようもありませんでした。馬房は馬匹3頭（青姫、青波、と先輩の預託馬へぼ馬）、更衣室、宿直室（宿直は男子当番制、毎日実施）、飼料置き場からなる小規模な建物でした。飼いつけは朝夕の2回、時々夜飼いとして近くの蕎麦屋さんの好意で蕎麦湯をいただき与えることもありました。切り藁に燕麦と塩を水で混ぜた粗末なものでしたが、（切れの悪い切り藁機には閉口しました。）飼料代は溜まる一方で、部費の他、ほろ売却代、映画のエキストラ出演、競馬場の草刈、雑誌掲載用写真撮影等々のアルバイトでの部費稼ぎで凌いだ時もありました。当時飼料を購入していた東京馬糧は私達の情報をよく理解してくれており、支払いが滞つても馬糧を運んでいただき、いまでも感謝しておりますが、それでも部費が入った都度、現金で買いに走りその場を凌いだことも度々で、オートバイで部に通つたりしていた私などは何時もその役を仰せつかつていました。粗末な飼料の為か夜間、センツウをよく起こして夜中に校庭を引き馬した事等、今は懐かしい思い出となっています。馬匹はその後青葉、青影、青菊等とふえ、玄人はだしの内藤先輩（昭和33卒）が自力で馬房を増設されたりした事、今は遙か昔のことですが、なんとも凄いいことをしたものでした。当時会計を担当されていた内藤先輩や白崎後輩（昭和35年卒、故人）

は部員を見ると、部費々の催促で大変なご苦労をされたこと、今思い出しても頭が下がります。馬場は青学会館がある所で、現在の幼稚園の入り口を入り右へ折れた場所で、砂が殆ど入っていない埃っぽい、水はけの悪い馬場でした。練習中は、何時ももうもうと、土ぼこりが舞い、よくタオルでマスクをして練習をしたもので、特に雨上がりの日は人馬共に全身泥んこの状態でした。入部して間もなくS校舎（当時の呼称）会談教室の建設が始まり、事実上馬場は無くなつてしまいました。その後世田谷の桜新町にあつた青学グラウンドへの移転の話もあり、先輩の命で夏休み等、休日に草刈の奉仕もしましたが私が卒業した昭和34年までは許可がでず、構内にあつた大学グラウンドが馬場代わりで、学校行事、各部部活とも共用のため、練習時間は殆どが早朝6時からが主で、そのうえ赤土の固いグラウンドで反動が強く、馬匹への影響は特に大きく足の故障は絶えませんでした。又U教授が部長をされていたラグビー部からは、グラウンドが臭うとか部員が破傷風になるとかのクレームも多く、その対策には苦労したものでした。又時間の関係で練習後の馬の手入れもそこそこに、馬装のままU先生の授業を受けたりしていましたが、その為かは甚だ疑問ですが、偏見を交えて言えば、部員にはU先生の担当された必修科目、へ自然科学概論Vの単位取得に4年生までかかった同志がかなりの数を数えました。（こ

れも時効々）昨年桜の季節に海外で見るとような、夢のような新厩舎、馬場のオープン祝賀会に参加させていただき、その素晴らしさ充実ぶりに驚くと共に何とも幸せな気持ちになりました。幾多の方々のご尽力の賜物と感謝申し上げます。創部84年の歴史、伝統は重く今後も先人の労、思いを忘れることなく、この血を脈々と引き継がれんことを特に若き部員に切望いたします。

御指示のありましたタイトルとは、かなりずれてしまいました。老会員の戯言とお許し頂ければ幸いです。

綱島の思い出

鈴木 敏文

(昭和五十年卒)

私の綱島厩舎の思い出は、最初は木造の、「オンボロ建物」でした。壁のいたるところに穴が開き、穴をふさいだ板は蹴破られ、かじられ、当然、雨漏りなどもある状態でした。

馬が寄りかかると傾くのではと心配するほどでした。継ぎ足した馬房もありました。馬場向きの、その継ぎ足した掘って建て馬房には「青駟(愛称オイモ)」が居ました。反動の無い、トロッターで、

練習馬として皆のあこがれでした。

寒い冬の日、その首に抱き着くと、なんとも言えない温かさが伝わってきました。練習の後、藁がけをして乾かすのですが、汗で湿った馬体から立ち昇る湯気は、正に「オイモ」でした。

そして「青凜」、小さいくせに「噛み付き癖」。さすがにキリスト教の学校だけあって、女子の間には「右の胸を噛まれたら、左の胸を出せ」という厳しい「教え」があったとか。

その他、当時の馬は「青驢(ゴンベ)」「青冠」「青貴」「青柏」「青笛」「青朋」「青蓮」「青虎」・・・。

みんな「青(アオ・セイ)」が付いていました。学校への行き帰りの東横線の中で「今日は、セイシが元気できあ。」「明日は、セイキになるぞ。」などの会話は、周りの乗客達にはどのように聞こえていたのでしょうか？

更衣室も、もちろん木造。男子と女子の壁は、薄いベニヤ一枚でした。その木造厩舎も、建て替えることとなり、先輩の号令の下、自分たちで解体作業をしました。

素人の学生に解体作業が出来たくらいですから、相当の年代ものでした。その跡に建ったのがブロック造りの厩舎です。

馬房の上には、乾草やら藁等を保管しました。当時は、オガなど想像も出来ず。ポロワラ係と言う崇高な仕事がありました。

近郊の農家にトラック一杯ポロを積んで行き、

積めるだけの藁と交換してくるのです。頭から全身藁まみれになりながらの全員作業でした。

晴れた日には、厩舎前のコンクリートから馬場の砂の上まで藁を広げて干しました。濡れた藁を干すのは、かなりの重労働です。よく、かよわい(?)女子の学生に出来たものだと今になると不思議でなりません。

まあ、ポロ庫に放り込まれても平気な皆さん達でしたから。雨の日には、厩舎の隅に積み上げるのですが、あの独特の臭いは、今も脳裏を離れません。私は、草刈に行けば、釜で自分の足を切ったり、長靴でグラウンドを走らされ(当然、罰で)、足がつってしまったりと失敗した思い出ばかり覚えていきます。

「蕃来軒」の「蕃麵、蕃井」・「ロアール」の「チキンカツ」・「喜楽」の「ソースカツ丼」・「丸十」の「ヤキソバパン」・・・。

帰りには、レピドールにお立ち寄り。あの、レモンの入った水が忘れられません。

そして、何と云っても、阿部先生(調教師)にご馳走になった手料理と日本盛です。何もかもが忘れられない貴重な青春の思い出です。



84周年を彩る思い出の馬場・厩舎

松永 恭直

(昭和六一年卒)

東横線綱島駅から徒歩にて約15分、青山学院大
学体育会総合グラウンドの端に馬術部の練習馬場は
ありました。30×70程度の決して大きくない馬場
でしたが、青春の一ページを飾るには十分な思い
出の舞台でした。

申し遅れました。私は、昭和61年卒業の松永恭
直と申します。寄稿の依頼を受け、甚だ僭越に存
じながらも、社会人となり年月が経過するに連れ、
綱島が原点だったと思える懐かしい気持ちも
あり、書かせていただくことにしました。

当時は、一年次上の先輩方(60年卒)が、男性
〇名女性6名、全日本の団体総合において3位、
女子自馬では全員が満点走行、個人でも松本さん
が全日本学生馬場馬術にて入賞、等々、輝かしい
一時代をご一緒しました。その最大の要因は、コー
チ陣の献身的な支援でした。本当に心から感謝し
ています。先ず松本昭四郎先生です。

綱島の近くにマンションを構え、毎朝お仕事の
前にご指導に来てくださいました。先生の馬場馬
術部班運動の時、馬場が上手くない私は、出血を
避けるためにパンツを履かないで乗ったもので

す。また、松本先生が、「松、泊まりか？食べに
来いや！」と誘ってくださいるのが、本当に嬉しかっ
たのを覚えています。次に、田中一弘コーチです。

田中コーチは、ドイツ仕込みの障害馬術を我々学
生に、熱意を持って、ご指導くださいました。週
末の障害馬の調整、そして競技会に向けての継続
的で計画的な育成なくしては、このような成績を
残せなかったと思います。馬を仕上げていく段取
りと手順は、かかわった者としても感動的できえ
ありました。

春にはそよ風を感じ、夏には蝉の声を聞き、秋
には馬達も元気で、冬にはぼろ山の湯気がほんわ
かと暖かい。馬上で、そんな季節感に抱かれなが
ら、多感な時期を綱島で過ごした経験は、情操の
世界に生きた証として、自分の内面の奥深い部分
に存在しています。愛すべき馬達と素晴らしい人々
に囲まれとても幸せでした。

最後に、「諸先輩方々、感謝しています。そして、
頑張れよ！後輩諸君！！」

綱島時代の思い出

安田 景一朗

(平成十三年卒)

皆様の中にはすでにご存知の方もいらっしゃる
かと思いますが、僕は現在JRAの調教師として

活躍している父の傍らで、競走馬の調教について
日々勉強しています。

今もこうして「馬」に携わる生活を送ることが
出来るのは―僕の生まれ持ったスーパータクニツ
クによるのは勿論ですが―それにもまして、馬術
部での様々な経験が、自分にとって大きな糧と
なっているからだと思います。

一言で言って、当時の僕は「人気者」でした。同
期で男が僕一人だったということもあって、部活
では良くも悪くも可愛がられましたし、僕も、そ
んな周りの期待に応えようと一所懸命頑張りました。
「どうすれば笑いが取れるのか」「どうすれば
みんなが盛り上がるのか」と。

それから、人気者の宿命として、怪我が絶えな
かったですね。あるときは、合宿の最中に勢い勇
んで窓から飛び出して骨折したり、またある時に
は、綱島グラウンドに草野球に来ていたおじさん達
と試合をした際、平凡なフライを顔面でキャッチ
して鼻が大変なことになったりもしました。

そんな僕を、時に厳しく、時に温かく迎えてく
れる場所、それが馬術部でした。素晴らしい環境
と素敵な仲間にも恵まれたおかげで、僕にとって本
当に「グレート」でした。

肝心な馬の話題が何一つ出てきませんが、まあ、
ほら、僕って、記録より記憶に残るタイプです
から・・・。

奇しくも、綱島で4年間過ごすことが出来たの

は僕らの代が最後で、それ以後アシエンダそして現在の町田と移っていき、僕にとつては段々と縁遠いものになってしまいつつありますが、それでも、折に触れ現役の活躍を耳にすれば嬉しくもありますし、また、懐かしくあります。そんな今日この頃です。

綱島の思い出

鈴木 美穂

(旧姓・横田)

(平成十五年卒)

はじめて馬に触れたのは、綱島の体験乗馬でした。間近で見た馬の美しさと、部室の衛生状態にカルチャーショックを受けていると、いつの間にか悪い仲間に引きずり込まれ、気づけば自分も真っ黒に日焼け。趣味はボロ拾いと草刈、掃き掃除という有様でした。時々、通行人が



堀越しに覗き込んで、小さな馬場の練習風景を見学します。中には「馬がいる！」と驚く声も。静かな住宅街の中にポツリと建つあばら家こそが、綱島厩舎でした。端々が崩れた薄暗い厩舎、雨が降ると田んぼのようになる馬場。飼料の調達から馬の治療まで、現役学生による手作り経営で、部の台所は常に火の車。練習や厩舎作業の他にも、トイレやドブの掃除で、ドロドロ姿の私たちを、いつも笑顔で応援してくださいだったのは、毎日通ったコンビニのご主人でした。そんな綱島で2年間の下積み生活(?)を送った仲間は、ライバルとしてぶつかり合いながらも、4年間の学生馬術を全うしました。綱島は恵まれた馬術環境ではありませんでしたが、学生にとっては、なかなか恵まれた勉強の場でした。きっと卒部した誰もが、その後の人生を、勇気を持って切り開いていることと思います。今ぼんやりと浮かぶ綱島の風景は、隣接するグランドの草むらを歩く馬の姿です。風が草の匂いを運び、西日がタテガミとシッポをきらきらさせていました。青学馬術部で4年間を過ごすことができ、とても幸せでした。

綱島馬場回想記

津田 果奈

(平成十五年卒)

二十世紀末の当時、馬場は綱島の大学グラウンドの片隅に、ぼつんと抜け落ちるがごとく存在していました。新入生として見学に来た少女の眼には、その光景が実に異様に映っていました。

馬房は二棟で構成され、小さな外馬房の二階に部員の部屋がありました。飼いつけ時には飼桶を揺らす音がダイレクトに響き、おちおち昼寝もできません。裏にはラグビー場が隣接し、緊急時には窓から側の木の幹に飛び移り、脱出することが可能です(やりませんが)。

練習馬場は狭く、馬事公苑で障害をする際の待機馬場位の広さしかありません。練習の基本は部班、土日は時間差をつけて馬を出すのが通例。障害のコースを作る時は、

一級建築士並の空間センスが必要とされました。

専用の放牧場なんかありません。練習が終わってから当番が練習馬場の出入口を閉め、放牧してました。無論一頭ずつ。いくら狭い馬場とはいえ、一頭ではやりたい放題です。放す時は良いものの、捕まえるのが大変で...

餌でおびきよせる、出口を開けて追い込む、など、手に汗握る攻防を繰り広げておりました。

不便さはありましたが、同時に大学所有の敷地ゆえ、気楽さもありました。夕方には馬場でサッカーやキャッチボールをする光景が見られ、まさに青春そのもの。夜には一年生が飲んで騒ぎ、酔って馬房を徘徊しても咎められることはなかったのです。

二十一世紀を迎え、私も三年生になろうとしていた頃、グラウンドの閉鎖にともない活動拠点をアシエンダ乗馬クラブ内に移転することが決まりました。広い練習馬場、室内馬場や放牧場まで使わせて頂き、お世話になったのだと改めて思います。

現在、網島グラウンドはマンションとなり、わずかに残る並木が面影を伝えております。姿は変わっても思い出は残る、そう信じていたいものです。

アシエンダでの思い出

高遠 あゆ子

(平成十六年卒)

網島グラウンドから、OGの北井さんのアシエンダ乗馬学校へ馬場が移動したのは、わたしが2年生

になる2001年の春でした。当初は1年位との予定が、結局2005年までお世話になってしまいました。

アシエンダ乗馬学校の施設は大変充実しており、わたしは3年間をそこで過ごすことができ幸運でした。それまで、障害も馬場も試合前にしか経路の練習ができなかったのですが、いつでも障害のコースの練習、馬場の経路、さらにはコンビネーションの練習までできるようになりました。また、日常的に北井家のみなさま、桃野コーチが練習されているところを見られたり、練習を見ていただいたりもできました。さらに、当時まだ下級生だったわたしたちとしては、オガ集めをしながらよくなったこと、小島さんにポロ山を取りにきていただくタイミングにははらしなくてよくなったこと、水桶がウォーターカップになったこと、先輩からの死角が増えちよつとのんびりできるチャンスが増えたこと等も秘かにうれしかったと記憶しています。馬以外にも、犬のジョンやぶーちゃん（本名はダンボだったようですが）、猫のヒロもいて、今思えばのんびりした平和な時間だったなあと思います。

アシエンダの隣に西友という大きなスーパーがあったことも、それまで買出しといえばファミマしかなかったわたしたちにとって大変化でした。食べ物のセレクトがかなり増え、自己最高体重をマークしたのがあの頃だったのはそのせいだと思います。

います。モンタボーというパン屋さんの試食コーナーを、当時もとても荒らしていたのは、きっといつもおなかをすかせていたわたしたちだったでしょう。部活をしていた頃は、なぜあんなに食欲があったのか、もはや武勇伝です。途中で西友の隣にできたダイソーで、馬場着&長靴姿でプリクラをとったこともよき思い出です。

と、とりとめもなくアシエンダの思い出を書き綴ってみました。現役の頃は長いと思っても引退して思い返せばあつという間の思い出です。アシエンダの緑に囲まれ過ごした時間を懐かしく思い出しました。

アシエンダ乗馬学校は

成瀬 聡

(平成十七年卒)

アシエンダ乗馬学校は、僕が人生で始めて馬に触れた場所であり、学生時代の大半を過ごした場所（自宅）でもありました。

というのも屋内馬場のすぐ横にあったプレハブのオガクズ小屋に私は現役時代約一年半住み込んでいたからです。

歴代そのプレハブ小屋は泊まり当番の男子部員の寝床であり、自宅に帰るのが面倒臭くなったアシエンダ乗馬学校は、僕が人生で始めて馬に触れ

た場所であり、学生時代の大半を過ごした場所(自宅)でもありました。

というのも屋内馬場のすぐ横にあったプレハブのオガクズ小屋に私は現役時代約一年半住み込んでいたからです。

歴代そのプレハブ小屋は泊まり当番の男子部員先輩、作業に疲れきり寝てしまう後輩などが入り浸る場所でもありました。

僕もその例に漏れず、一年の後半からプレハブ小屋の住人となりました。

部活終わりに汚れた状態(シャワー設備がなかった)で使用していたので部屋は部員が食欲のまま食い散らかしたコンビニ弁当、飲みかけのペットボトルがたくさんあったり、もはや誰も着なくなった歴代先輩方の馬場着がロッカーの中に突っ込まれてたり、ひどいコンディションでありながらも、僕はその空間が嫌いではありませんでした。

部活では厳しかった先輩がその部室では優しく、鍋パーティーをしたり、酔いつぶれて担ぎ込まれたり、遊びに行く計画を立てたり、(時に説教小屋に変わることもありましたが)今思うと部員たちの大切な交流場所でした。

アシエンダで活動できて、本当によかったと思うことは、他の大学の馬術部が普段めったに交流する機会がない乗馬クラブの会員さんやスタッフの方と親しくなれ、可愛がってもらうことができ

たことだと思っています。

スタッフでOGの北井裕子さん、桃野さんをはじめ北井一彰さんには度々練習を見てもらい、調教をつけてもらいました。またそれだけでなく日本トップクラスの馬場と障害の選手が乗っているところを普段から間近で見ることが出来たことが個人レベルはもちろん当時の部活にどれだけ影響を与えたか、本当に恵まれていたと思います。

最後に学生のわがままや非常識な行動を時に厳しく時に優しく指導してくださったアシエンダクラブ長をはじめとしたすべての関係者の方に感謝の気持ちしかありません。

アシエンダは自分の青春そのものでした。本当にお世話になりありがとうございました。

遠野での夏合宿の思い出

今野 幸夫

(昭和五三年卒)

突然、先輩から遠野の合宿の思い出を書いて頂けないかという話が来たとき、ずっと長い間忘却していた懐かしいその地名が脳裏に甦ってきた。

残念ながら、私は卒業後札幌に戻って来てから一度も馬に触れていないせいも、また、同期の間とも遠く離れていることもあって昔の思い出を語り合う機会も自然と少なくなり、慣れ親しんだ綱島の馬場や遠野の合宿の思い出もすっかり消えかけていた気がする。

早速古いアルバムが残っているか探したところ、わずかに数枚記憶を呼び戻すのに手助けしてくれた写真が残っていた。

あれからちょうど30年の歳月がたっていた。私が大学4年の夏であったが、今は亡き青木真次様をはじめ諸先輩のご尽力で、初めて岩手県遠野市に人馬共に移動しての夏合宿を計画していただいた。東京のうだるような暑さから逃れ、新たな避暑地を開拓してそこに本拠を移すがごとくの気分であった。

夜中に綱島を出た馬運車に、藁を敷いて愛馬と共に眠り（馬は眠れなかったかもしれないが）、朝目が覚めたときは遠野市に着いていた。

馬も私たちも疲れきっていたが、地元は「歓迎青山学院大馬術部」の横断幕を掲げ、遠野の役場や住民が町をあげて歓迎してくれたし、地元の青年部は獅子舞で迎えてくれた。

青く透き通った空、おいしい空気、どこまでも広がる草原や田畑、近くまで迫る山々などまさに新天地に来た思いであった。

合宿所はちよつと驚いたが、遠野の昔話でも有名で古くから言い伝えられている「さしきわらし」がほんとうに住み着いていそうな古い藁葺き屋根の民家であった。しかし居間のいりりに吊された鉄鍋を囲んでの自炊生活、夜遅くまで語り合った時間、先輩達も駆けつけてくれて庭で開いたパーベキューパーティなどどれも仲間との団結心をより強固にしてくれたかけがえのない時間であった。

乗馬で市街を歩き、愛馬と川の中を散歩し、裸馬で草原を駆け回ったこともあった。

何より喜んだのは、やはり馬たちだろう。暑さと狭い馬場から解放され、思う存分走り回れる環境の中、その動きはこれまで見たことのない飛んでいるような感じさえ受けた。

愛馬たちも私たちも、秋の大会に向けて遠野からたくさんの元気をもらった充実した夏であった。

改めて、遠野の合宿にご尽力を頂いた故青木真次様をはじめOBの方々、当時の遠野の関係者にお

礼を言いたい。



トリプルチャンス号と私

遠野での 夏合宿の思い出



遠野での合宿練習の様子



川を散歩して記念撮影



中庭でバーベキュー



遠野での合宿練習の様子

エピソード

佐藤 一貫

(昭和三十三年卒)

前略

過日は緑鞍会総会の準備・運営等ご苦労様でした。過日は緑鞍会総会の準備・運営等ご苦労様でした。

さて、総会にて、近く「いななき」を発刊予定と聞き、馬術部の活動の歴史のページを飾るエピソードとしての資料を送ります。

添付資料は、確か昭和32年の春だったか夏だったか時期は忘れたが、資金集めにダンスパーティーを企画・開催した際の会員券です。

当時は、各大学の運動部や文化部などで、資金集めのバンド演奏会やダンスパーティー、音楽会等、あちこちで開催されて、現在のようなJRA等のアルバイトも無かったので、馬を購入したりする為に色々やりました。

当時最上級生だった私らが、北海道の渡邊充を中心に部員全員が企画運営に当たりました。私はオープン間も無い高輪プリンスホテル(旧館)の当時の支配人幅さんに無理を頼んで、地下ホールを借り切ることに成功しました。当時は都内で一番大きなホールでした。

早稲田を卒業したばかりの堤義明氏と弟が付き合っていた関係で、脇からプッシュして貰いました。

当時売り出し中のペギー・葉山、新倉美子(二人共に青学OG)に出演を依頼したり、シャープ・&フラッツ、ブルー・コーツ等に依頼し、なんとかブルー・コーツの出演で、部員でもあったウエスタン歌手の寺元圭一君にも出演してもらい、超豪華メンバーでのパーティーでしたので、券は完売に近く、入場制限するほどでした。

この売り上げで、積年の馬糧屋等の借金を返済し、馬を5頭入れ替えることが出来ました。

今一部は、学院創立百周年を記念して、学馬連において、後にも先にも何処も出来ない、青学馬術部主催で馬事公苑の覆馬場を借り切って、記念競技会を開催した時のプログラムや、関係書類の一部のコピーです。

皇太子殿下(現陛下)、佐藤栄作首相をお招きしてと、色々関係筋を当たりましたが、警備等、難しい問題があつてそれは実現しませんが、企画書から運営の全てを取り仕切つて成功させました。

当時の学院院长兼理事長・大木金次郎先生を始め、学長・部長、理事等沢山の参列を得て、学院にも馬術部があつて、結構活躍しているんだと言うことを、学院職員にアピールしました。学院内でもこのような記念行事をやった部は他に無かつたので、かなり注目されたのは事実でした。

当時の馬事公苑長大木正巳氏には本当にお世話

になりました。

余談ですが、このためには眼に見えない金を随分使ひ、私の懐は火の車でした。

その為に、収支決算書のコピーを入れた訳ではないですが、赤字の補填もきつかった。

これらの資料を見て、当時活躍し、また手伝つて呉れたOB/OGと当時の部員達の、楽しい記憶として、また改めて思い返して頂ければ幸いです。



青山学院創立百周年記念馬術大会

1974年10月6日 於…世田谷馬事公苑



御挨拶

おのやかな秋風の心地よい季節となりました。

さて青山学院は本年10月6日に創立100周年記念の式典をいたします。この創立100周年を祝賀するために、本学院の馬術部員との集まりにより馬術大会を開催することとなりました。私たち青山学院関係者にとって誠に喜びにたえないところであります。

近年日本全国にある私立短大の諸大学のみならず、様々な大学が盛りましたが、最近、いくぶん静寂をとりもどしたように思えます。しかし、青山学院は如何なる伝統的な活動に付しても、結果たる態度と責任をもってこれに行動して発展して参りました。

このような時機に、本学院の内外の関係者によって、本馬術大会を開催いたしますことは大いに意義があるものと我々は考えております。皆様御立派なご来賓に御出席を願っております。馬術の発展と新しい門を開いた決意を思いおこします。

ここに本行開催いたしましたお申し込みの件につきまして、また開催方によりご出席下さいますお申し込みの件につきましては、日頃の訓練による成果を充分に発揮されようお祈り申し上げます。皆様のおかげには何卒の礼儀であられたお集まりもあられますが、あふ々の学生時代を思い出して気持ちを新たく盛り立てる願望して行きます。

尚ほ、本大会開催にあたり特別の御立寄りを賜りました日本中央競馬会馬事公苑はじめ、日本馬術連盟、全日本及び関東学生馬術協会、また関係団体の各位にたいしまして深甚の感謝を捧げ、お礼を申し上げます。

昭和四十九年十月六日
青山学院院長 大木 金次郎

青山学院創立百周年記念馬術大会開催ご案内

秋風の候、皆様にはいよいよご清栄のこととお慶び申し上げます。

此の度、青山学院創立百周年を迎えるにあたり、青山学院の益々の繁栄と発展をはかるため、創立百周年記念馬術大会を左記により開催致します。

この記念すべき大会に是非ともご家族共々ご出席賜りたくご案内申し上げます。

記

日 時 昭和四十九年十月六日(日曜日)午後一時三十分
場 所 世田谷区 馬事公苑内 覆馬場
(オリンピック施設で屋内敷設場ですので雨天でも開催です)

青 山 学 院 馬 術 部
青山学院大学体育会馬術部部長 大木 金次郎
日向寺 純 雄

昭和49年8月20日

設

青山学院創立100周年記念高術大会要項

日 時	昭和49年10月4日(日) 12:30～
所	青山学院(高専) 目黒区上目黒3-1-1 TEL 429-3191
競技種目	1) ゴムカー 2) 学生標準中障寄飛越競技(ML30～W150-12) 3) 百才記念小障害 ＊ ＊ (ML10～W130-10)
参加資格	本学院他関東学生高術協会加盟校の学生及びOB (但し、会場の都合により主催会費で当該校の割引をさせていただきます。)
観覧料	高専公開の工事等の都合により、後日高専は当日観覧をお断りいたします。(各校4席とする)
選 別	各校3名3名のチームとし、その試合成績により順位を決定し、各項目の総合得点により、総合優勝校を決定する。並部は1位より2位とし、

大会時間表

時 間	競 技 種 目
12:20～12:50	ゴムカー
13:00～13:20	ボニー演技(山曜氏)
13:30～14:00	開 会 式
14:20～15:20	学生中障寄飛越競技
15:50～16:50	百才記念小障害 ＊

山崎君 宇野君 中央大学 沼津大学 東京農工大学 慶応義塾大学 慶応大学 法政大学 青山学院 (協賛)

馬術競技の見方

馬術競技は、馬と人との調和によるスポーツです。
馬の走るスピードは、馬場内では約40km/h程度で、馬の走るスピードは、馬場の外では約60km/h程度です。馬は、馬場の外では約60km/h程度で走り、馬場の内では約40km/h程度で走ります。馬の走るスピードは、馬場の外では約60km/h程度で走り、馬場の内では約40km/h程度で走ります。馬の走るスピードは、馬場の外では約60km/h程度で走り、馬場の内では約40km/h程度で走ります。

青山学院創立100周年記念 高術競技大会スケジュール

1. 12:20～12:50	ゴムカー競技
2. 13:00～13:20	山曜氏 (ボニー演技)
3. 13:30～14:00	開会式
4. 14:05～14:15	観覧場コース下見
5. 14:20～15:20	学生標準中障寄飛越競技
6. 15:25～15:45	表彰
7. 15:50～16:50	100才記念小障寄飛越競技
8. 16:55～17:20	表彰及び閉会式
9. 17:30～20:00	パーティー

開 会 式 次 大

1. 13:30～13:40	選手入場 (東馬にて)
2. 13:40～	演壇挨拶 大木院長
3. ～	''' 鈴木 (日高連会長)
4. ～	''' 高村賢治 (全日、関東学高)
5. 14:00	開会宣言 ''' 百才 藤野会長

賞状と賞品を贈る。

- そ の 他
- 1) 各校出場人数は一回目1名1個とする。
 - 2) 第一競技は女子1～2名を擁したチームとする。(別部として)
 - 3) 第三競技は、4名4個のチームとし、4名の合計今年数が百才以上でなければならない。チームに必ず学生選手を擁する事、尚此の場合1回1名にかぎりず、選手のみ1名一回限りとする。男女は問わない。
同競技のチームがあった場合は合計年数の多い方を上位とする。
 - 4) 入場の順序は任意無制限とする。その賞は問わない。
 - 5) 参加者の服装は見苦しくならざる事、必ずヘルメットを専用の事。(競技場下見及び表彰式を含む)
 - 6) 参加者の健康証明書は必ず持参する事、其所定の手段、預託がなされて居る事。

競技規則 日本馬術連盟競技一般規定による。

申込期日 1) 申込締切日 昭和49年9月7日(土)

No. 49.11-Y

1962年11月1日

種 目	予 算	決 算	備 考
上級学級費	500000	500000	
修学旅行費	200000	0	
修学費	200000	166000	
修学費	120000	107000	
修学費(雑)	100000	97000	
支 出 費			
資料費(図書)	85500	85500	
修学旅行費	50000	14500	予-計上
修学費	25000	25000	
修学費	30000	15764	予-計上
修学旅行費	140000	455750	予-計上
修学費	120000	100000	予-計上
修学費	100000	195500	予-計上
修学費	40000	0	予-計上
修学費	50000	50000	
修学費	50000	50000	
修学費	80000	28860	予-計上
修学費	40000	45500	
修学費	0	14190	
修学費	90000		

11月20日 472064

委員会 役員

- ・ 委員長 日向幸輔 (高松支部長)
- ・ 委員長委員 佐藤一貫 (高松支部長)
- ・ 委員幹事委員 (*得 ナーフ)
* 佐藤 (日高連)
河原、木堂、水井、窪城、豊我、山本、原野、荒井、
以上0名、及び 青学学生10名、日大学生10名
- ・ 会計監事委員 * 池中 (OB) 井川、川島、塚、小川
- ・ 庶務担当 * 六甲 (OB) 高橋、小林 (知)
- ・ 審査担当 * 佐藤博司、大淵三三、北野建二、村上健治、
伊藤正昭、赤川仁、大島孝子
- ・ 審査補助 * 藤井、梶山、鈴木 (管内)
- ・ 放送及び進行担当 * 佐藤一貫、板倉、小柳 (正)、甲井、植木

祝


「いななき」 第17号発刊

佐 藤 一 貫 (昭 和 33 年 卒)

青木先輩・羽坂先輩米寿のお祝い 叙勲(旭日中綬章)のお祝い

【ご出席者各位】

式次第



羽坂先輩 叙勲(旭日中綬章)のお祝い

青木先輩・羽坂先輩米寿のお祝い

1) 日程：2007年12月8日(土)PM12:00~PM14:00

2) 場所：三笠会館 鶴沼店

3) 式次第 (司会 鎌谷幹事) (敬称略)

① 米寿の会 開会のご挨拶	緑鞆会会長	新城直樹
② 乾杯	緑鞆会理事長	岩崎 修
③ ご歓談		
④ ご出席の皆様からお祝いのお言葉		出席者全員
⑤ 花束・色紙贈呈 (お祝いの言葉を添えて)		赤嶋田米子 登内知嘉子
⑥ 青木先輩・羽坂先輩よりお言葉		
⑦ 記念撮影		参加者全員
⑧ カレッジソング		参加者全員
⑨ 中締め	緑鞆会幹事長	星 亨輔

青山学院大学体育会馬術部の大先輩であります、青木昇さん・羽坂勇司さん(元青山学院大学理事長)が八十八歳を迎えられ、お二人の長寿を願い、日ごろの感謝の気持ちを込めて『青木先輩・羽坂先輩米寿のお祝いの会』を昨年の12月8日(土)に行いました。

ご高齢のため、お二人の地元である神奈川県湘南、鶴沼海岸の三笠会館での集まりとなりました。当日は大変お天気がよく、12月とは思えないほど穏やかな日でした。

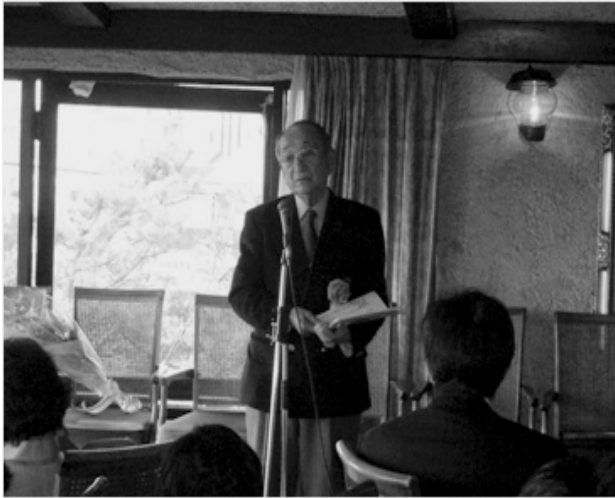
羽坂先輩におかれましては、11月3日に秋の叙勲受章者の発表があり、『旭日中綬章』を受章されましたので、重ねてお祝いの会となりました。

今回は、馬術部のOB会である緑鞆会の理事・幹事を中心に企画をしました。当日は、お二人を含めて緑鞆会理事・幹事、及び現役の26人が出席しました。新城会長のご挨拶、岩崎理事長の乾杯から始まり、出席者全員からは順番にお二人へのお祝いの言葉と、メッセージ入りの色紙をお渡し致しました。お二人には大変喜んで頂き、最後は恒例のカレッジソングを全員がひとつの輪になり肩を組んで歌いました。

出席者の最大年齢差はなんと68歳。この孫・子ほどの世代間の集まりに、羽坂先輩からは『米寿のお祝いの集まりで、なかなかこれだけ年齢差のある会はない。』とお言葉をいただきました。

現在は現役の人数が少なく部活運営が厳しい中ではありますが、現役・若手OBにとっても、何倍も年の離れた先輩より熱いメッセージを送られ、元気をいただいた様子でした。お二人とも年齢を感じさせず、とても豊饒(かくしゃく)とされており、我々後輩も負けてはいられないと思えました。更に卒寿・白寿のお祝いもさせていただきます。

馬術部は今年で創部85周年を迎えます。ひとつの志を持って過ごした四年間の馬場生活、今も昔も馬を思う気持ちは同じです。部活動を通じた世代間のつながりが諸先輩方が築かれた伝統の絆であり、これからも良き伝統を守っていききたいと思っております。



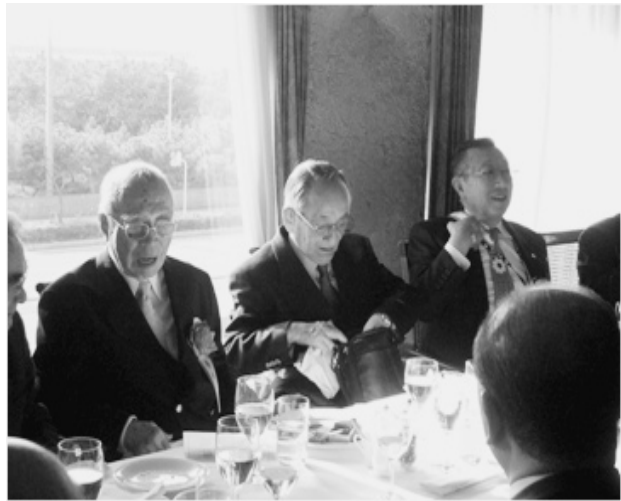
羽坂先輩よりご挨拶



青木先輩よりご挨拶



青木先輩、福原先輩、赤嶋先輩



青木先輩、羽坂先輩、新城会長



星幹事長、芦川先輩、里中先輩、板倉先輩



集合写真

祝

「いななき」 第 17 号発刊

青 木 昇 (昭和 16 年卒)

祝

「いななき」 第 17 号発刊

新 城 直 樹 (昭和 28 年卒)

祝

「いななき」 第 17 号発刊

堀 内 陽 一 (昭和 29 年卒)

祝

「いななき」 第 17 号発刊

秋 元 国 松 (昭和 32 年卒)

祝

「いななき」 第 17 号発刊

内 藤 喜 嗣 (昭和 33 年卒)

祝

「いななき」 第 17 号発刊

赤 嶋 田米子 (昭和 33 年卒)

祝

「いななき」 第 17 号発刊

豎 村 昭 三 (昭和 34 年卒)

豎 村 美恵子 (昭和 36 年卒)

祝

「いななき」 第 17 号発刊

芹 野 範 明 (昭和 34 年卒)

祝

「いななき」 第 17 号発刊

石 原 弘 行 (昭和 42 年卒)

祝

「いななき」 第 17 号発刊

上 山 千 恵 子 (昭和 50 年卒)

祝

「いななき」 第 17 号発刊

林 哲 哉 (昭和 52 年卒)

祝

「いななき」 第17号発刊

福原美里（昭和31年卒）

私のホームページに是非遊びに来てください。

椅子道楽

<http://www.ecomate.co.jp>

椅子のついでに様々な知識と気ままな「みさとの独り言」が掲載されています。ご愛読ください。

【アクセス方法】

Yahoo!やGoogleなどの検索エンジンで「オフィスチェア」と入力して検索をしてみてください。1ページ目に表示されます。

〒164-0013 東京都中野区弥生町2-10-10-402
株式会社 エコメイト 代表取締役 福原美里
TEL. 03-3376-6887 FAX. 03-3376-6880
文学部英米文学科 昭和31年卒

大型看板施工からシール印刷まで、
サイン・ネームプレートのことなら
お任せ下さい。

創業 80 年の歴史が培う技術と品質で、皆様をサポートします。
個人のお客様也大歓迎です。



優勝カップ・盾



有限会社ミカド・ユニ
ミカド金属株式会社

所在地：神奈川県川崎市川崎区塩浜 1-15-13
電話：044-277-4334
FAX：044-277-3241
MAIL：mikado-group.co.jp
URL：http://www.mikado-group.co.jp/

第三部

現役紹介

主将挨拶

渡邊 彩

今年度主将を務めています渡邊彩です。私にとってこの四年間はあっという間過ぎました。私が入学すると同時に卒業された高遠主将から、四年間は早いと聞いていましたが、本当にそうだと実感しています。私も残り四ヶ月で引退となりました。



今、振り返ってみると「主将」という二文字に重みを感じてスタートした2007年度は大塚監督をはじめとするコーチやOB、OGの方々、同期、後輩に助けられ温かい部活を築くことができました。昨年は、様々なことが起こりました

が、その一つ一つを監督やOB、OGの方々、部員で乗り越えることにより、絆がより深くなったと思っています。

また、今年度で大塚さんが監督を辞するということと節目の年に主将を務めていることを光栄に思っています。残りの4ヶ月、大塚監督にとって最高の一年となるよう部員一丸となって活動していきたいと思えます。

今後も引き続き、現役への応援及びご指導、ご鞭撻のほどを宜しくお願い致します。

部員紹介

(あみだくじで決めた他已紹介です。)

「渡邊 彩」 1年 木林 里乃

こんにちは。国際政治経済学部、国際政治学科4年で、青学馬術部女主将の渡邊彩です。

私は、今の青学馬術部部員の中で唯一、三種目やっています。アクアブルー(ジンガー)で馬場。ブライトブルー(ハクリュー)で障害。ディーブルー(ヒガシ)で総合をしています。

この馬たちを自らが運転する馬運車で試合会場まで運びます。どんなに細い道も、急なカーブもなんのその。私のドライビングテクニクでスイスイと進みます。ただし、急なカーブを曲がるときは馬達に「大丈夫かあ?」と声をかけながらハンドルを切ります。大切な、大好きな馬に傷をつけたら、たまったもんじゃありませんから!

馬の他にも私は、ポンジュースと子供が好きです。店頭からポンジュースが消えた時は焦り、愛媛から取り寄せるよう、下家さんに頼んでしまいました。:

来春から、美容系の会社に就職します。美しくなったら結婚して、子供が欲しいなー。だって子供好きだから!!子供の名前は:ジンガー?!

「安保 静奈」 1年 石澤 裕弥

安保先輩は偉大なる先輩です。馬学についての知識だけではなく、人と話す上での言葉の使い方についての指導を怠らず、青山学院馬術部としての振舞い方というものを教えてくれます。また、場の雰囲気配ることを忘れず、周囲を盛り立てるために常に笑顔で私たちに声をかけてくれたりと、明るい振る舞いが絶えません。何よりも次に何をしなければいけないか、何ができるのか、指示をテキパキと出す姿は馬術部を知り尽くしており、また馬への愛情の大きさを感ぜさせます。そしてそれがリーダーシップとなって我々を引っ張る力となってくれているのだと思います。

馬術では、クラウドとシンフォニーを乗りこなす障害を飛ぶ姿は鮮やかで、馬術指導についても相手の向上心を上げさせる指導をしてくれます。このように四方八方あらゆる面から尊敬する先輩です。

「野上 香織」 4年 渡邊 彩

あたしや野上だよ。野上香織だよ。最近、タカアンドトシのライオンの方に似ていると言われているんだよ。

趣味は、音楽、映画鑑賞。だからレディースデイの水曜日は私の日。野上の日。ちなみにB、Zの稲葉さんが大好き。そして料理も好き。だから、部活では母さんのポジションかな。一年生の時の合宿では、コロツケ作って持っていたら安保と渡邊に「天使が来た!!」なんて言ってもらったこともあったっけ…。

ここでは、本音を語ろうかな。ご存知のとおり私は、よく注意をします。それは、怒っているのではなく、注意なんだよ。青学馬術部を愛しているからこそ、こんなに注意できるんだなと思っています。でも、やさしいから一言いっただら、これでよかったのかな？なんて考えることが毎日あります。本当は、青学で一番優しくして、ナイーブな心の持ち主なんです。

えっ？て思った人、あなたはまだ本当の野上を知らないんですよ！野上のそんな一面を知らないあなたは、かなりの損をしているかと思えます…。そんな彼女にも最近悩みがあるんだって。それは、犬の青太郎に身長を追い越されていること。まだ一歳なのに…。犬に負けるなんて。生意気だ！でも、態度は私のほうが勝っているもんね。へへ

ン！これからも、青太と一緒に切磋琢磨していきます!!負けないからね!

「元野 法子」 1年 中野 亜耶

福岡県代表、小倉競馬場少年団出身の元野法子です。教育学科の2部の私は1日のほとんどを馬場ですごして、馬に異常はないか部員は大丈夫だろうかと常に気を配っています。

上の先輩方を支え、下級生たちのフォローに入り、なにかと毎日大変だと思うことは多いですがこれらの青学馬術部を築き上げていくことを考えれば、大好きな馬たちの為と考えれば、何も苦ではありません。また、一人暮らし生活の先輩でもある私は、1年の一人暮らし組である木林や中野に節約のアドバイスなどもしてあげなくてはけません。

同期も下家さんと二人だけという過酷な状況の中、部員を支え、馬を管理して、部活を運営していく上でこれから不安はいっぱいありますが、今までいろんなことを教えていただいたことを一杯活かして、やると決めた決意を固く、頑張っていこうと思います。小倉魂をなめんな!!

「下家 ひろみ」 1年 森 美穂

馬術部2年、マネージャーも担当している下家ひろみです。愛媛出身のみかん好きです。馬が可愛くてしかたがありません。馬のためなら片道40

分の自転車通部も苦ではありません。とくに担当馬匹のブルーコンフェリーチエとブルーミニポを溺愛しています。ブログでは写真でその魅力を紹介しています。馬に関るようになったのは大学に入ってからですが、一年の夏から毎日部活に出るようになり、今では難なく仕事をこなします！また、1年生の菜ちゃんや森美穂ちゃんたち一般生に色々教え、よく面倒をみます。菜ちゃんは「下家さんおもしろい」が口癖になりつつあるようです。関東幹事として大会でお仕事をしたり、元野さんと共に合宿のスケジュールを考えたりと、一年生をまとめ、引っ張っています。乗馬では、馬場を練習して小さな試合に出場しています。馬に鞭を打つことが怖くて苦手なところがあり、鞭なしでも馬を元気に動かせるようになりたいと思っています。これからも、仲良く、楽しく、馬と部員さんと過ごしていきたいです。

「木林 里乃」 2年 元野 法子

私は、文学部日本文学科1年の木林です。北海道の浦河高校馬術部出身です。幼いころから馬と接してきました。広大な台地で育ちました。東京に来て1年がたとうとしています。一人暮らしや東京の環境にも慣れてきました。東京の暑さに耐えられるか心配でしたが、なんとか夏を乗り越えました。お気に入りの白桃アイスのおかげです。これから馬術部で活躍できるように体力をしっかりと

りつける為にも5kg太ることが目標です。もうすぐ達成されます。

自身を持っていることは総合のビデオ撮影。総合の馬付きビデオは私に任せて下さい。どんな障害でも駿足を生かして撮影します。他の人に笑われても走り続けます。下調べも慎重に行います。イメージトレーニングは欠かしません。もちろん選手としても一生懸命、がんばります。

「中野 亜耶」 1年 森 香奈子

法学部法学科1年の中野亜耶です。高等部の馬術部を引退し、ブルーホビットと共に

に入部しました。馬に関わることが大好きな私は、雨の日も風の日もどんな天候でも馬場まで15分かけてママチャリ通部しています。急に雨が降ってくれば裏扉を閉め、馬の具合が悪くなれば様子を

見に馬場へ戻ります。
「一輪車のタイヤがパンクした」ポロミが壊れそう」HPへの書き込みお願い」と言われ走り回っている毎日です。

皆からは「天然」と言われますが・・・ズバズバと物事を言うけど落ち込みやすい同期を支え、高等部コーチとして高校生も気にかけています。一人暮らしで節約生活をしアクエリアスのペットボトルに水を入れ替えて飲んでる私は、馬術部での4年間で花嫁修業も兼ねているに違いありません。

自分の実力向上だけでなく、高校生をインターハイで優勝させてあげる事が目標です!!宜しくお願

「森 香奈子」 4年 野上 香織

森香奈子は計算高い女である。

彼女は小学校5年生から弦巻少年団に所属し、馬術の道に足を踏み入れた。そして高校1年の春、数ある同期の中から団長に選ばれた彼女は、少年団の伝統を守り厳しい指導に明け暮れた。しかし、その方針に従事する者は多いとは言えなかった。だが、それは彼女の思惑通りであったのだ。

森は、早くから当校にセレクションとして入学する事を志していた。その為には、少年団としての成績では無謀であることは明白であった。その為、彼女は少年団の最後の一年を辞退し、NSGRDに移籍したのである。果たして何人の団員がこの憎らしい団長の脱退を悔やんだであろうか。咎められずに脱退する事が出来たのは、彼女の企み無くしては有り得なかつたはずである。

当校に入学した後も彼女はその力を発揮し、馬匹に対し誠心誠意を持って接している。これが見返無しにする態度であろうか?ここまで我々4年生を信頼させるとは、悔りがたい。この森香奈子という女は。

「石澤 裕弥」 4年 安保 静奈

あだ名は「いっしー」。青学馬術部、またの名を「大奥」に入ってきた唯一の男の子。上様としていなくてはならない存在だ。夏合宿で馬場の経路を同期が踏んでいるのを見て、感動してしまつた。入場して敬礼をし審判員が脱帽し礼をしたのを見て、馬術はなんて美しいスポーツなんだ!とうるつとしてしまった。しかし目標は障害の試合に出ること。こんないっしーの特技はたてがみ編み。人生で初めて三つ編みをし、秘められた才能に気付いてしまった。「オレって手先器用!」

女の子が重いものを持っていると「大丈夫?」と声をかけてあげるも、けして持つてはあげない。このギャップがたまらない。そして部活一の気配りやさん。しかし意外と毒舌。なかなかおもしろい。実は車の免許を持っているのですが、馬運車運転は頑なに拒否。この先、青学をひっぱってってくれる存在になつてね!いっしー☆

「森 美穂」 1年 平山 菜子

こんにちは!青山学院馬術部1年の森美穂です!私は大学から初めて馬術部に入りました。たくさん部活やサークルがあった中で、まるで青山学院の馬たちに導かれていくかのように、いつのまにか入部してました!初めて参加した日は新鮮な体験ばかりで、分からないことがたくさんあ

りました。そんな中、先輩方と同期の仲間に使えられながらたくさんのご縁を得ることができました。馬たちと共に過ごす時間の中で、私はどんな馬の魅力ひかれています。その中でもブルーラグーンという馬は私にとって特別な馬です。馬場で現役活躍中の現在15才のラグはとてもやさしくて大人しい馬です。ラグの乗り心地は抜群！まるで、私の思っていることを察しているかのよう、ところが通じ合うのです！これからも私たちの大切な10頭の馬と共に成長していきたいです♪

「平山 菜子」2年 下家 ひろみ

Hello guys! 私のことばは、「S.A.I.」サイちゃんってみんな言うわ。漢字で書くと「菜ちゃん」「greens」ね。この青山学院の「青」っていうのは、緑色ってことご存知かしら？つまりgreen！私にぴったりじゃない。私は青山の高等部から進学したの。でも、その前はU・S・Aにいたのよ。いつもは英語なんて使わないけど、今日は特別！U・S・A バージョンよ。

horsemanship、馬術は大学に入ってから。馬術ってとても exciting！最高よ。ええ、外から見ると、そうね、確かに elegant だわ。

でも勘違いしてもらっちゃ困るわね。本当はとっても hard なの。慣れるまでは私、鞍についているSOSが手放せなかつたくらいよ？フフツ。

それに夏の合宿にはヤラれちゃったわ。暑いし朝は早いし、もうフラフラ！でも私、へこたれなかったの。ええ、そうね、私が slim で feminine なのは確かに事実よ。あら、自慢に聞こえる？
：・違うのよ。

私、frank opinion を言っただけ。つまり…そうね、私、とっても素直なのよ。…とにかく！私の細くて白い腕がみんなみたいになるなんて unbelievable だわ。けどね、大切なのは heart でしょう？私、感じてる。

自信があるわ。なんでも positive に考えてみると、世の中って案外たいしたことないんだから。やれるわよ。私、positive thinking and attitude は得意なの！

町田グラウンド新馬場落成

二〇〇六年四月七日



一九xx年x月x日、我々馬術部はx年に渡り活動の場としてきた綱島グラウンドを去ることを余儀なくされた。思い出の詰まった綱島を去ることとは、OB・OG、当時の現役共々寂しいものがあったことであろう。その後、OGの一人である北井裕子さんのご好意により、神奈川県瀬谷区にあるアシエンダ乗馬クラブに在籍させて頂いた。その間、北井さんを初め同じくOGである桃野亜紀さんや他スタッフの方々にご指導頂いたことはまだ記憶に新しい。そして五年後の二〇〇六年四月七日、遂に新しい馬場が落成し、移転の運びとなった。今回は新しい環境と施設を御紹介しよう。

まず出迎えてくれるのはステレンスで作られた立派な看板だ。ここが我々の居場所であることを証



明してくれて
いる頼もしい
奴である。
出入り口の馬
栓棒を潜り、馬
の匂いのする
ほうへ向かっ
てみると、右に
は七頭分、左
には九頭分計
一六頭入れる
馬房を見渡す
ことが出来る。



またその間には淡い褐色をした煉瓦張り
のスペースがあり休馬の日などはここで
曳馬が出来るように設計されている。右
側にある馬房にはサンシャインパドック
が設置されており、隣同士

の馬が外で喧嘩をしないように、日ごと交代でパドックに出す決まりになっている。天気の良い日には、パドックで瞳を閉じ、のんびりと昼寝を楽しむ馬を見ることが出来る。





次に後ろを振り返ってみるとそこには横にスライドする扉がある、それは飼料庫である。現在飼料はアシエ

ンダ時代にもお世話になっていた横浜商事に依頼している。頼めば翌日には配達してくれる、長年信頼関係を築いてきた会社である引越し当初はゴムで出来ている床に直に飼いを置いていた。しかし、ある日副監督でいらっしやる斉藤比佐郎さんが、木材を担いで来たかと思ったらその日の内に丁度良いサイズのラックを作って下さったのだ。お陰様で風通しも良くなり、衛生面上文句のない飼料庫となったのである。

次に隣を見てみよう。其処には同じ形式の扉があり、その中には試合会場で使用する藁が置いて



ある。ここには、その柔らかい暖かさに誘われて度々冬眠中の蛇が発見される。見つける度に安保の叫び声が馬場に木霊する。彼女は蛇が大の苦手なのである。はたまた何故かその発見の場に毎回居合わせる大塚監督は、蛇は縁起が良いのよ、と安保の恐怖を笑い飛ばす。やはり彼女、大物である。

また、その隣にはシャッターが下がっており、



中にはオガが常備されている。こちらも現在は購入しており、月に一回程度の割合で四つものオガがトラックに積まれてやって

くる。毎回輪車を使って、余っている馬房とオガ庫に振り分ける。これが結構な労働量で、帽子マスクの重装備でトラックを待ち構えるのである。シャッターを閉め、ふと視線を馬房の方へ向けると、今度は何やら青い大きなコンテナが目に入る。これは作業等で排出されたオガなどを処理するボロ捨て場である。

二週間に一度、空のコンテナを持ったトラックが、中身の一杯になったコンテナと変えてくれる。アシエンダの時のように、山に捨てる事が出来ないで、今はこのように処理している。蓋の箇



所が高い位置にあるため、スロープを登り、そこからオガを投げ入れられている。驚くことなかれ。このスロープもまた、斉藤さんの力作である。角度を緻密に計算し、このためだけに作られたスロー

プはコンテナと表裏一体の如く我々の仕事を手助けしてくれている。また、雨の日に長靴では滑るから、と田中英樹さんと藤原さんが等間隔で滑り止めまで付けて下さったのだ。現役にかけるお三方の愛情には脱帽である。

サンシャインパドック付の馬房を覗きつつ歩を進めると、そこには洗濯場と蹄洗場が見える。洗濯場には洗濯機が二つに乾燥機一つ、そしてゼッケンやタオル等の布類が仕舞われている。また、壁を見てみると水温調節のスイッチもある。この町田グラウンドでは、馬を洗うための水をスイッチ一つでお湯に変えることが出来るのだ。これにより、冬でも馬を洗うことが出来、清潔を保つことが出来る。しかし、洗った後の濡れた体を乾かすほうが風邪を引かせてしまうのでは？と懸念する方がいるかもしれない。ご心配なく。向かい側

の馬房の一番端に、シャッターで区切られた中に
秘密兵器が待ち構えているからだ。その秘密兵器と
は、懇願して設置して貰ったソラリウムシステム
である。これは、遠赤外線を発する電灯が天井か
ら吊り下げられており、その下に馬体を置いてお
くだけで、体の中から暖めてくれるという便利な
代物だ。乾かす為だけではなく、体の固い馬や背



中の治療等に使用することもしばしばある。



馬匹紹介

「ブルーホビット」

2年 元野 法子



僕の名前はガリアーノことブルーホビット。青学の最年長ホース。青学に来て、まだ一年ほどしか経っていないんだ。来た当初はガリガリのスマート体系だったけれど、

今は運動力も飼いも増えて、少しポッチャリしてきたよ。高校生の練習にも大活躍中。体はみんなよりも小さいけれど障害飛越には自信があるよ。今までの経験を生かして青学では若手選手の成長を手助けするよ。

こんな僕にも弱点が……。それは飼いつけを待つこと。待ちきれなくて前掻きをして、よく怒られちゃうんだ。好物のハチミツを見ると鼻を鳴らして催促しちゃう。ハチミツをもらったら隣の馬房にいるシンフォニーと分けあって一緒にペロペロするんだ。シンフォニーとは仲良しなんだ。

みんなに年寄りだと心配されるけど、ヤル気と食欲は若い馬に負けないよ。青学でもたくさん活躍できるように頑張るよ。

「アクアブルー」

4年 渡邊 彩



ブーンブーン（バイクの音）俺様の出番がきたな。「ジンガー」別名「アクアブルー」とは俺

のことだ。最近、年をとるごとに味ができたのかファンが多くなってきた。高校生の宇野なんて俺にメロメロだからな！若い頃の俺はというと、頭に血がのぼりやすく少しでも触れようとしたり、得意の後ろ蹴りをおみまいしていた。しかし、最近、最近の年のせいかわるくなってきた。そして最近、お隣さんでダチ（友達）の「ハク」と世間話をするのが日課となっている。日課と言えばもう一つ。練習後の放牧だ。練習後の放牧、これが俺の贅沢だ。そして、放牧後のにんじん！最高にうまい☆☆☆一仕事を終えた後のにんじんは、人間でいうビールと一緒にだ。

こんな感じで毎日を過ごしている。

得意技は追いかけっこ。放牧中に気分がのつていれば、飼い主と追いかけっこをしている。これは、青学厩舎で俺だけが得意な技だ！それからもう一つの得意技が。それは、俺のオーナーの土橋さんが来るのを予知することだ。土橋さんが俺に会いに来ると感じると俺のテンションは上がる。上がりすぎて怪我をすることもあるくらいだ。最後に一言土橋さんに。「こんなすぐに頭に血がのぼる俺を、可愛がり続けてくださったことに感謝しています。」 ジンより

「ブルーシンフォニー」

4年 安保 静奈



元々の名前前はゴールドラッシュ。ゴールドに輝いていて試合に行くとき目立つ。青学に来て付けてもらった名前は、馬場馬らしく、交響曲という意味を持つシンフォニー。

趣味は音楽鑑賞。特に男性バラードは大好き。最近では平井堅がお気に入り。平井堅が流れると馬房から顔を出して、バラードにも関らずノリノリに。宇多田が流れると戻って行く。

特技は空を飛んでいるような伸長歩。全日本四位の実力馬。悩みは実はフケ症である事。フケ専用シャンプーで丸洗いしても午後にはうっすら白く浮き出るものが…。

チャームポイントは、いつまでも伸びないそして増えない前髪。おだんごにすると、申し訳なさそうにポチっとあるのがホントにかわいい。出身地は大阪。大阪育ちとは思えぬ程(?!)上品である。ご飯の時間も他の馬が騒ぎだしてもおとなしくじっと待ってられる。

「ブルーラグーン」

4年 野上 香織



ラグーンの意味を知ってるかい? 日本語では濁って言って、外海と分離して出来た塩湖の事なんだって。つまり、

馬って分類的には同じだけど、ちよつと隔離され

た位置にある特別な存在って事だよ。きつとそうだな。僕にぴったりな名前だと思わない?

僕はアングロアラブの15歳、馬場馬さ。青学に来てもう8年以上が経つ古株だよ。

連れて来られた当初は暴れん坊で、馬場ラチの中で立ち上がった。りしたんだ。でも今はそんな事しないよ。だって体が重くて暴

れても体がついて来ないんだ! 困ったやつだよ。ご飯ってのはさ。

最近はお隣のクラウド君の鎖の演奏会を聴くのが楽しみ!! 時々ヒートアップし

すぎて、止めてくださいって言うんだけど、クラウド君は僕の声が聞こえないみ

たい。何か一つの事に夢中になれるのは良い事だよ。ね!!

従順ってよく言われるよ。だから僕の隠れファンは数え切れない!! 隠れないで皆

公言しても良いのに。恥ずかしがり屋さんなんだから。そんな君には僕からのペ

ロペロアプローチを浴びせてあげるから、馬場に来た時は僕に人参を持って会い

に来てね!!

「ディープブルー」

4年 渡邊 彩



チュルチュル。オス! 自分ディープブルーと申します。別名、東です。最近世の中では密かに自分ブーム

みたいです。ディープインパクトや、(自分が元祖だけどね。)宮崎県知事だったり。今まで休養していたので、これから波にのって頑張りたいと思います。今は、ブルースコープから受け継ぎ唯一の総合馬として頑張っています。先輩はすごい総合馬でした。自分も先輩に負けないように頑張りたいと思います。(ONの東。)

本当は、僕とっても気が小さいの。神経質で、好き嫌いが激しい。嫌いな人が近づくと歯軋りして威嚇するんだ。僕の良いところは、ジェントルマンなところかな? みんな水を飲むとき、ガブガブ飲むけれどそんな飲み方はできない。僕は、舌を折ってストローにしてそれを使っ

て飲むんだ。チュルチュル…。どう? 紳士的でしょ?! それから、最近よく僕にセクハラ行為をする人がいるんだ。それは、マネさんなんだ

けど僕を見つけると「ヒガシちゃん。」と言いながら僕のお尻にタッチ。まあ、彼女が僕のやわらかくてピチピチなお尻にメロメロな理由もわかるんだけどね。(OFFの東。)

こんな自分ですが、これからも宜しくお願いします。

「ブライトブルー」

1年 木林 里乃



僕の名前はブライトブルー。試合では主に障害に出てくるよ。本当は、水と

かはこものとか怖いんだけど、青学の為に僕は頑張るんだ!!

試合会場には、町田の馬場にはない物がたくさんあって、とてもビクビクしちゃうの。だから、少しの事でも暴れちゃうんだ。僕って本当に小心者……

でも、こんな僕でも大胆になれる場所があるんだ!!それは、馬房の中。練習が終わって馬房の中に入ると、安心しすぎていつもお昼寝し

ちゃうんだ。もちろん、試合会場に行ってもお昼寝はかせないね!みんなが人参や草を配っているのに、寝ていて気付かなかったり、隠し撮りされても気付かなかったり。眠すぎて倒れかけたこともしばしば……。お昼寝を邪魔されたときの僕は、「小心者」なんて微塵も感じさせないくらい凶暴になるんだ!馬房に人が入ってきた途端にガンと壁をけ蹴り、ガブツと噛み付いてやる。

こんな弱さと強さを兼ね揃えた僕。もっと練習して、もっと高い障害を飛べるように頑張るから、これからもよろしくね!

「クラウドブルー」

1年 中野 亜耶



クラウドブルーことセゾンコンチエルトです。みんなのアイドル、コンちゃんだよ。

なんたって僕は青学代表して2走馬の王子様なんですから!でも別名「ワガママ王子」と呼ばれる僕なんです。僕のワガママと

気まぐれっぷりでみんなおたいたへん!そんな僕だったのでこの夏は明松寺馬事公苑さんに修行に出されてしまいました!そして大成を遂げた僕。どんな障害も大っ嫌いなダブルもびよんびよんでできるようになりました。

毎日可愛いつて言われて楽しくすごしてる僕です。可愛いつて言われるために努力は惜しみません。馬房の中のおトイレの場所は決めているし菌磨きは1日中やっててもいいくらい大好きです。だからいっぱいいっぱい可愛いって言ってね!そしたらもっと僕は頑張ります!!

「ブルーコンフェリーチェ」

1年 森 香奈子



こんにちは!皆から「コンフェ」の愛称で親しまれている、ブルーコンフェリーチェで

す。青山学院大学馬術部の将来を背負い、障害馬への道を歩んでいる私です。今はとても大人しく従順で人気者の私ですが、去年まで中央で

ブイブイ走っていたんです!!

最近皆が「コンフェー」としつこいからイライラして八つ当たりしちゃうけど…初対面の人には可愛い顔でスリスリしてファン増量計画中☆夕方になると鼻が綺麗なピンク色になるのも私のチャームポイントです♪

練習前の常歩をすると、どうしてもトイレが我慢できなくて。。。MMAトイレは馬場の真ん中です。あつーでもさすがに試合場ではしないでですよ。ファンが多いですからー。

まだまだ若い私≡これからタクサン経験を積んで、将来Bigスターになります！ファンの皆さん、応援お願いします★

「ブルーミニポ」

2年 下家 ひろみ

ほくミニポ。小さなポニー。いつもはおうちの中でねころがったり、うんこ食べたりしているよ。そしたらね、きこえてくるんだ。「あと5分です！」とか、「手入れおせいよ！」とか。お外では何がおこってるのかな。ほく、小さいからおうちのまどにとどかないから、わからないんだ。(そんな小さなほくに、最近みんな乗っかってくるんだ！お背中がムキムキになっちゃうよお。)でもね、ほくの運動のお時間がきて、ほく

んちのとびらが開くと、みんなニコニコしてるの。それで、てのひらいっぱい、ふってくるんだ。ほくのまえがみ、ほっぺ、くび、おしり…。うふふ。でもやっぱり見えない間のことは気になって、夜の間こそうごうごはふくらんで、朝になっておそうじの人がとびらを開けると、もう、ほく、たまらなくて。とびだしちゃうんだ。そしたら、ぶつんだ、ほくのこと！…いけないことかしら。お外の世界をもっと知りたいと思うこと、いけないことかしら。

ああ、どこまでも行きたいな。野へ、山へ、みどりのくにへ！でも、そこにみんなのてのひらは、あるかしら。そうだ、ねえ、みんないっしょに行こうよ。ほく、おいしい草あるとこ知ってるよ！ヒヒヒヒヒイーン！

高等部紹介

部員

3年 主将 高橋 冨香

副将 宇野 晃世

1年 畠 中美 耶

富田 絵美

奥山 璃映

井上 駒美子

早川 美奈子

■毎週土日と祝日などの学校の休みの日に青山学院大学町田グラウンドにて大学生と一緒に活動

高等部主将挨拶

高橋 冨香

私たち高等部馬術部は3年生3名、1年生6名の計9名で毎週の土日祝日に大学町田グラウンドにて大学馬術部と一緒に活動しております。一時は部員不足により廃部の危機に瀕した高等部馬術部ですが、監督やコーチの方々、OB/OGの方々、顧問の佐藤先生を始めとした教職員の方々、大学馬術部員の皆様のお支えあって、今日まで活動を続けることができました。

4月の新入生歓迎会においては、高等部馬術

部関係者皆様のお計らいにより、ミニチュアポニーを連れてこられたことが功を奏して、新入部員がたくさん入り、部活に活気が戻ってきたように感じられました。そして、一般の試合への参加、7月に山梨で行われた第41回全日本高等学校馬術競技大会(インターハイ)への出場、長野の明松寺での夏季合宿など貴重な経験を得ることができ、部員全員の志気が高まって、もっと上を目指そうという意識を持つ良い機会となりました。これらの経験を得られたことはひとえに日々、コーチのご指導を仰ぎながら馬や設備などすべてにおいて恵まれた環境の中、練習させていただけるお陰であり、そのことをとても嬉しく思います。

末筆ではありますが、伝統ある高等部馬術部の名に恥じぬよう部員一同、日々精進してまいりますので今後ともお引き立てのほど宜しくお願い申し上げます。

活動記録

- ・ 関東高校リーグ戦(4月28・29) 出場
- ・ 全日本高等学校馬術大会関東地区予選(6月18) 出場
- ・ 関東高等学校馬術選手権大会(7月14・15)
- ・ 全日本高等学校馬術大会(7月20・22) 出場
- ・ 関東高等学校自馬大会(12月15・16) 出場

活動計画

- ・ 関東高校リーグ戦
- ・ 全日本高等学校馬術大会関東地区予選
- ・ 関東高等学校馬術選手権大会
- ・ 全日本高等学校馬術大会
- ・ 関東高等学校自馬大会

平成 19 年度試合結果

2007.02.12 2月ホーストライアル ビギナーズクラス	優勝	渡 邊 彩	ディープブルー
2007.03.04 関東学生新人馬術競技大会 OB小障害飛越競技	2位	田 中 英 樹	ブライトブルー
		藤 原 大 輔	ブルーコンフェリーチェ
	4位	土 橋 寛 太	ブライトブルー
		斉 藤 久 絵	ブルーコンフェリーチェ
2007.03.08 3月ホーストライアル プレノービスクラス	3位	渡 邊 彩	ディープブルー
2007.03.17 第27回スクーリングジャンプ&ドレッシング Part2 第4課目	8位	渡 邊 彩	アクアブルー
	9位	野 上 香 織	ブルーラグーン
セントジョージ章典 2006	9位	野 上 香 織	ブルーラグーン
	10位	渡 邊 彩	アクアブルー
2007.03.24 第33回トキノアラシ号記念馬術大会 小障害飛越競技 90 c m一般班	8位	渡 邊 彩	ディープブルー
小障害飛越競技 100 c m一般班	2位	渡 邊 彩	ディープブルー
中障害D飛越競技 (非公認)	11位	安 保 静 奈	クラウドブルー
2007.04.09 第44回東都学生馬術競技大会 馬場馬術競技セントジョージ課目	2位	団 体	
2007.04.21 第32回ユドラ号記念馬術大会 J.E.F 第4課目 2004 1班	8位	野 上 香 織	ブルーラグーン
2班	5位	渡 邊 彩	アクアブルー
2007.05.18 第34回東京都馬術大会 東京障害飛越競技 100	2位	森 香奈子	ディープブルー
東京障害飛越競技 110	14位	安 保 静 奈	ブルーコンフェリーチェ
東京障害飛越競技 120	6位	安 保 静 奈	クラウドブルー
	10位	渡 邊 彩	ブライトブルー
婦人障害飛越競技	11位	森 香奈子	ブルーコンフェリーチェ
セントジョージ章典馬場馬術課目 2000	5位	渡 邊 彩	アクアブルー
馬場馬術競技第3課目 2006 A	7位	渡 邊 彩	ディープブルー
2007.05.27 全日本ジュニア総合 2007 トレーニング障害馬術競技	6位	渡 邊 彩	ディープブルー
トレーニングクロスカントリー競技	14位	渡 邊 彩	ディープブルー
22007.06.03 第77回関東学生馬術争覇戦 I部	7位		
2007.06.10 第53回東京馬術大会 セントジョージ賞典馬場馬術課目 2000	14位	野 上 香 織	ブルーラグーン
2007.11.23 第45回関東学生馬術女子競技大会及び関東学生会長杯 馬場馬術競技	6位	団 体	ディープブルー
2課目 会長杯	14位	下 家 ひろみ	ブルーコンフェリーチェ
L級一班 90 c m	7位	森 香奈子	ブライトブルー
L級二班 100cm	5位	元 野 法 子	ブルーホビット
	12位	森 香奈子	ブライトブルー

編集後記

今回の『いななき』は、新馬場開設記念特集号と題しまして、現在の町田グラウンド以前の綱島時代、アシエンダ時代を知る多くの方々に思い出をつづって頂きました。日々OB・OGの方々から頂いておりますご指導ご鞭撻に加え、この『いななき17号』は町田グラウンドという新しい馬場を頂きました私たち現役一同、また、これから続きます現役たちにとって、青山学院大学馬術部の歴史を伝える宝物の一つとなると思っております。私たちはこの頂いたものを、これからの馬たちとの大学生活にしかと受け継いでゆきますので、今後ともますますのご指導ご鞭撻のほど、どうぞよろしくお願い申し上げます。

また、最後となってしまいました。この『いななき17号』を発刊するにあたり、たくさんの方々にご協力を頂きました。執筆して下さった方々、そしてご寄付やご協賛を頂きました方々へ、この場をお借りして心から御礼申し上げます。本当に、どうもありがとうございました。

二年 下家ひろみ

非 売 品

いななき 第17号

2008年3月20日 発行

発行者 青山学院大学体育会馬術部・緑鞍会
浄書 〒152-0002 東京都渋谷区渋谷 4-4-25
TEL 03-3407-2546 (体育会本部)

印刷所 サンパートナーズ株式会社
住所 〒105-0003 東京都港区西新橋 3-6-2
TEL 03-6402-1481



最高の機能と品質を誇る、 ナブコの自動ドア。



ビルに快適さと機能美を。

》》》自動ドア

自動ドアの販売・施工でトップシェアを誇るナブコシステム。その実績が培った技術とノウハウが、“最高”の2文字にふさわしい機能と品質を実現しました。お客様の多様なニーズに応えながら、快適さと安全性、そして美しさをどこまでも追求。建物に合わせた幅広い自動ドアをご提案します。



多様なニーズに応える高付加価値を。

》》》各種機能ドア

工場から病院、小型のビルなど、さまざまな建物のニーズにすぐれた機能と品質でお応えしています。いま求められるHACCPへの対応や、火災などに対する安全性の向上、高度なセキュリティ対策…各種機能ドアの幅広いラインナップから、建物の付加価値向上に最適の製品をご提案します。

- 超高速ターボドア ●スパイラルドア
- スタッキングドア ●エコスプリント ●防火ドア
- NATドア ●ミニフォルド ●ミニグライドなど



おかげさまで50周年
ナブコシステム株式会社
<http://www.nabcosystem.co.jp>

詳しい資料をご請求ください。
営業開発部 東京都虎ノ門1丁目22番15号

24時間
365日対応

メンテナンス・サポートサービスのご連絡は、ナブココールセンター

TEL. (03) 3593-0181
FAX. (03) 5251-3848
0120-0725-86

AOYAMA GAKUIN UNIV.



EQUESTRIAN CLUB